

# 56 雲の上の町、森のなかの憩いの図書館 ～人づくり、学びの場、交流の場、出会いづくり～

高知県 梶原町立図書館(ゆすはら雲の上の図書館)

### 基本データ

所在地	高知県高岡郡梶原町梶原 1212-2
職員数	7人
うち司書数	3人
蔵書数	55,200冊
利用登録者数	2,120人
年間貸出冊数	18,100冊
(児童用図書貸出数 5,690冊)	

### テーマ・活動のねらい等

【テーマ】様々な利用者へのサービスの充実

【活動のねらい】

- 平成 30 年5月末に開館した町で初めての図書館として、人・本・文化をつなぐ架け橋としての役割。町民の憩いの場・学びの場、梶原の文化の継承・想像・発信の場、そして町内外を越えた交流の場となることをめざす。

## 取組・活動の概要

(1) 空間と調和し、利用者の興味を湧き立たせる構成の本棚づくり



図書館外観：町の風景と調和する図書館



書架：想像力を湧き立たせる棚づくりと棚をイメージしたジオラマ

(2) 幅広い年代へアプローチする居心地のよい空間づくり



館内掲示類 (1F・2F)：ゆるやかな注意喚起

(3) 様々なイベントの企画・取組み

① 音楽イベント (月1、2回)

- 様々なジャンルの生演奏の鑑賞を通して、町民の生涯学習に寄与。



音楽イベント：町内外の交流としても機能

② 映画上映会 (月1、2回)

## ③絵本の読み聞かせ（毎週）

- 図書館正面に位置する子ども園（幼保一貫）や福祉施設利用の高齢者を対象とした読み聞かせ（ボランティア団体と協働）。

## ④図書館秋まつり（年1回）

- 隣接する福祉施設と合同で秋まつりを開催。地域の方に両施設を知ってもらい、利用促進に繋がっている。

## ⑤ゆすはらの文化・歴史講座（年4回程）

- 生涯学習活動の促進として行う。

## ⑥パソコン教室（年1回）

- 町民を対象に、3日間連続講座を生涯学習活動の促進として行う。

## ⑦参加型ワークショップの開催

- ボードゲーム体験会
- ボルダリング講座（プロ講師を招き、館内のボルダリング施設で指導を受けられる体験会）

## ⑧地域子育て支援センターとの連携

- 館内の絵本コーナーにある子育て相談室において、“カンガルーのおなか”の名称で毎週末、子育て世代の親を対象に保育士による子育て相談や親子向けのワークショップ、ボランティア団体による読み聞かせを開催。

## ⑨認知症カフェ

- 地域包括支援センターと協働の取組み。主に地域住民に向けての認知症への理解、促進、予防等を館内での講座と団らんの時間を設け開催。



認知症カフェ：棚田をイメージした階段兼本棚に座り、思い思いに耳を傾ける

## 取組・活動の工夫や特徴

## (1) 空間と調和し、利用者の興味を湧き立たせる構成の本棚づくり

- 独自分類を採用。特徴的な空間のなかで、利用者の興味を湧き立てる構成の本棚づくりを心がけ、随時棚を見直し成長させていく。あわせて館内に複数の特集棚を設け、来館者と本を繋げる。

## (2) 幅広い年代へアプローチする居心地のよい空間づくり

- 禁止事項（会話、飲食、ゲーム等の禁止）を極力避け、貼り紙等をむやみに掲示しない。
- 館内 BGM を流し、静寂による緊張感の緩和。
- ボードゲーム、遊具の貸出しをおこない、様々な過ごし方を提供。

## (3) 様々なイベントの企画・取組み

- 町外と町内の文化活動者同士の結び付き。
- イベントをきっかけとした図書館利用を促進。
- イベント内容と図書館資料とを結び付け、図書や他資料にあたる楽しさを提供。
- 交流の促進。

## 取組・活動の成果や今後の展望

- 町内で初めての図書館として開館したこともあり、特徴的な建物における棚や空間の工夫、図書資料以外のアプローチを行う事で敷居を低くしたことが功を奏し、町内外を問わず、幅広い年代の来館に繋がっている。
- 開館年度に10万人の来館者を達成。イベントやワークショップにおいては、町内外の交流が生まれている。
- 今後は、図書館利用（情報活用）にどう繋げていくか、町の中心部だけではなく、町全体へのサービスをどう展開していくかが課題。
- また、郷土資料の収集と発信に力を入れ、町への寄与を目に見える形で行っていく必要がある。